

I 研究主題

**「主体的に学び合い、実践につなげようとする子の育成
～学びを次に生かす授業づくり～」**

1 研究主題設定の理由

(1) 本校児童の実態から

本校は各学年1学級、特別支援学級2学級の児童数93名と比較的小規模な学校であり、児童は緑豊かな自然環境の中で、地域の人たちに温かく見守られて生活している。概して明るく素直で、与えられた課題に対して真面目に取り組むことができる。授業では答えが明確な問題に対する解答、児童集会では友達の発表に対して自分の感想を述べることに積極的である。しかし、新たな課題に取り組むことや学んだことを次に生かそうとすることがまだ十分にできるとはいえない。

昨年のSASA2019の結果を見ると、国語では、文章を要約し、自分の言葉で工夫してまとめる力、条件を全て満たした文章を書く力がまだ十分に身に付いていないことが分かった。また、算数では、基礎的・基本的な知識を活用する力、複数の情報を関連付け考察し、条件に合うものを適切に判断する力がまだ十分に身に付いていないことが分かった。以上のことより、本校の学習面の課題は、文章の内容をまとめたり、根拠をもとに考えを表現したりする力や、既習の知識を活用する力を育成することである。そのために、説明したり活用したりする様々な方法を身に付けていくための授業構成や発問指示等の工夫が必要である。

(2) 昨年度までの研究から

昨年度、「自分の考えをもち、主体的に学ぼうとする子の育成～子どもが進んで学び合う授業づくり～」と研究主題を設定し、「学び合う」ことについて焦点を絞り、授業づくりに取り組んできた。1年間実践研究を進めた結果、発表意欲の向上や自己と他者の考えを比較しながら聞く児童の姿が見られた。しかし、相手を意識して分かりやすく発表する力、学習したことを次の授業や他教科、日常生活につなげていこうとする力が十分に身につけているとは言えない。

また、今年度より新学習指導要領が施行され、児童は、課題を自立的・協働的に解決し、学んだことを日常や次の授業で生かしたり、新たな学びを見つけたりする力が今後必要になってくる。一方、教師も、学んだことを児童がどのように生かせるのか見通しをもち授業を構成し、児童の様子をもとに授業を改善していく必要がある。

そこで今年度は、全教員の共通理解のもと「学びを次に生かす」ことについて、具体的に取り組んでいくことにした。

2 研究についての基本的な考え方

(1) 本校の児童につけたい力

学習において育成したい資質や能力として、本校の児童に特に付けたい力は以下の力である。

- ◎自分の思いや考えをもち、自ら学習課題や目標を設定し、多様な方法で解決しようとする力
- ◎自分の学びをふり返り、授業や生活に生かす力

(2) 「主体的に学び合い、実践につなげる」子供の姿

本校では、『主体的に学び合い、実践につなげる姿』を以下のようにとらえる。

- ・自ら学習課題を見だし、解決に向かって努力する姿
- ・自分の考えや思いを分かりやすく伝えようとする姿
- ・他者の考えや意見を自分と比べ、より考えを深める姿
- ・学習したことを、次の授業や日常に生かす姿

課題意識をもって考え、他者と関わり合いながら考えを深めていくという学習を繰り返す中で、学ぶことの楽しさや成就感を味わい、主体的に学び合う力を育ませたい。また、学習過程をふり返り、自己の変容を自分自身で自覚することで、次の学習や日常生活につなげ深く学ぼうとする力を育ませたい。

(3) 授業づくりの4項目に重点を置く

本校では、よりよい授業に向けて、4つの視点で授業の観察を行い、改善を図ってきた。本年度も引き続き以下の視点で授業の内容や児童の姿を見取り、研究を進めていく。

- ① 授業の構成
- ② 教師の話し方、発問や指示
- ③ 板書、ノートやファイル
- ④ 教材・教具

II 研究内容

1 研究仮説と仮説に迫る手だて

研究仮説

児童が学びを次に生かす授業について、具体的な手だてを効果的に取り入れていけば、主体的に学び合い、実践につなげようとする子が育つであろう。

仮説に迫るための具体的な手立て

- 手だて (1) 課題設定の工夫
- 手だて (2) 学び合う場の設定
- 手だて (3) 伝え合う活動の推進
- 手だて (4) ふり返りの工夫

2 学びを次に生かす授業づくりのために

(1) 課題設定の工夫

児童が主体的に授業に取り組めるように、次の視点を意識して課題設定を工夫する。

- ・学ぶ必然性がある課題
- ・児童の疑問からうまれる課題
- ・既習の知識・技能を活用できる課題
- ・身の回りの生活に関わる課題
- ・多様性のある課題

(2) 学び合う場の設定

①考える時間の確保

一人一人が自分の考えをもって授業に参加できるよう、考える時間や書く時間を確保する。
ワークシートなど教材を活用する。
つまづきが見られる児童には、考える視点を与える。

②学習形態の工夫

助言をもらったり、考えを比較・整理したりするため、ペアやグループ学習を取り入れる。

(3) 伝え合う活動の推進

児童の発言を支えるため、各教科や活動で計画的に具体的な話型を作成し、表現スキルを身に付けさせる。

朝読書後、あらすじなど本の内容を端的に伝える時間を確保する。

朝や帰りの会でのスピーチ、児童集会や学校行事での感想タイムなど発表の場を設定する。

→視点をしぼり、学級で発表指導を行っていく。

- ・自分の気持ち
- ・わかったこと
- ・よかったところ
- ・友達とはちがうこと

(4) ふり返りの工夫

ふり返りの時間を設け、自己の変容を捉えさせる。

授業の終末に、児童が次時の課題をもてるよう授業の構成を工夫する。

3 児童の学び合いを支えるための基礎学力の定着・向上

(1) 朝学習

(国語) 1～2年 視写の取り組み・・・ノート1冊準備(低・中で決める)

3～6年 国語プリント・ドリル購入等(担任が選択) ※10分程度のもの

(算数) 全学年 計算プリント・ドリル購入等(担任が選択) ※10分程度のもの

※学習の進度に合わせて柔軟に対応する。

(2) 漢字コンテスト・計算コンテスト

50問程度。計算は学年の実態に応じて問題数を設定する。年3回ずつ実施。
満点の児童を表彰する。

(3) 自主学習

日付・題名・ふり返りをかく。
自学記録表に記入する。(保護者のサインをもらう)
自学学習メニュー表を配付し、内容の向上を図る。
手本となる児童の自学内容を掲示していく。
予習や授業に積極的に活用していく。

(4) 読書活動の推進

移動図書館，巡回図書についても読んだ冊数にカウントする。

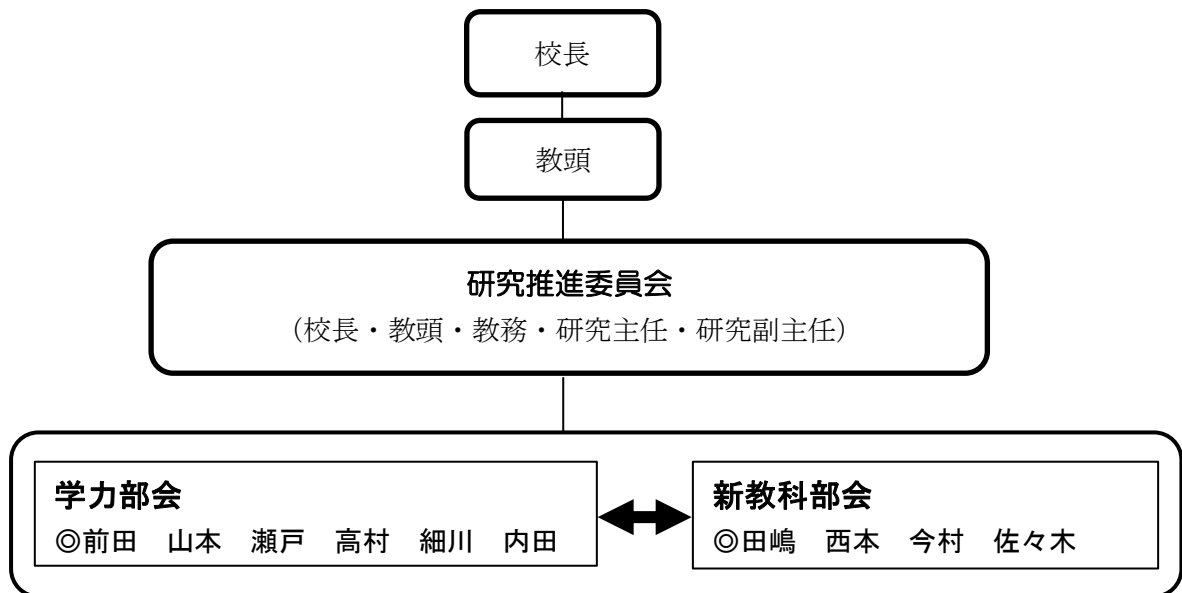
(5) 東っ子7か条

学年別に重点項目を設定する。(定期的に強化週間を設ける。)

(6) 学習ルール

低・中・高学年ごとに，板書やノートの取り方，文章問題への取り組み方を統一する。

4 研究組織



5 部会での取組

○学力部会

- 「子どもが学びを次に生かす姿」を目指して、全教員が各々研究テーマを設定し、日々の授業で実践する。
- 「授業づくり」に関する4項目（「①授業の構成」「②教師の話し方、発問や指示」「③板書、ノートやファイル」「④教材・教具」）で授業を見合い、指導力を伸ばす。
- 1人1公開授業後の校内研修を実施し、意見交換会を行う。参観シートを活用する。少なくとも半分以上の授業を参観する。授業は1時間通して参観する。
- 他県や他市町の先進的な学校の主体的・対話的な学びに関する授業やいろいろな機関の研修に参加し、教員間で伝達・講習を行い共有化する。
- 基礎学力の定着・向上を目指した取り組みの研究

○新教科部会

- 児童にとって「今必要な力」を育んでいく方法を現職教育等で紹介。
- 道徳化教材の活用方法、授業展開（親子道徳・公開授業等）についての研究・提案
- 英語の環境づくり、英語デーの実施

6 研究計画

日 時	会議の内容
4月22日（水）	第1回全体研究会
5月	研究部会
6月	第2回全体研究会
7月	研究部会
8月	現職教育
9月	研究部会
10月	第3回全体研究会・研究部会
11月	研究部会
12月	第4回全体研究会
1月	研究部会
2月	研究部会
3月	第5回全体研究会

7 研究授業について

	授 業		学年	授業者	教 科
指導主事訪問	11 / ()	参 観			
		提 案	1年	佐々木教諭	体育

